



シンボルマーク

新潟市美術館

和文ロゴ

Niigata City Art Museum

欧文ロゴ

新潟市美術館のシンボルマーク・ロゴのデザインについて

服部一成

シンボルマークは、新潟市美術館の頭文字「N」をモチーフに、前川國男設計による四角い建築に光が射し込む姿をデザインしました。色は、建築外観タイルの特徴あるオリーブ色に由来しますが、生き生きとした美術館の活動を願って、より鮮やかで現代的なグリーンとしました。

和文ロゴは、小さな正方形の集合体で「新潟市美術館」の文字を表現しています。落ち着いた雰囲気のある建築との調和も考えながら、なお、これからの美術館にふさわしい新鮮さ、ユニークさ、活発さ、軽快さが伝わるよう心掛けました。欧文ロゴは、直線と円弧による簡潔な文字で、太く直線的な和文ロゴに対して細い円弧が響き合うよう設計しました。

新しいシンボルマークとロゴが、四半世紀前の美しい建築と、ある部分では調和的に、ある部分では対比的に、相乗効果を生みながら、いつも市民の生活のなかにあって、美術館の創造的な活動のしるしとなることを願います。

はっとり・かずなり グラフィックデザイナー、アートディレクター。1964年東京生まれ。東京芸術大学美術学部デザイン科卒。ライトパブリシティを経て、2001年よりフリーランス。主な仕事：「キュービーハーフ」の広告のアートディレクション。雑誌『真夜中』、『流行通信』、『here and there』のアートディレクション。経済産業省「365日 Charming Everyday Things」プロジェクトのアートディレクション。「三菱一号館美術館」のロゴデザイン。東京国立近代美術館『ドイツ写真の現在』、金沢21世紀美術館『ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー』などの展覧会のポスター、告知物のデザイン。『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、中平卓馬写真集『来たるべき言葉のために』などのブックデザイン。主な受賞：毎日デザイン賞、第6回亀倉雄策賞、東京ADC賞、原弘賞、東京TDCグランプリなど。

